

## コッホ現象について



### 接種後の反応が早くでた場合

結核に既に感染している赤ちゃんに BCG ワクチンを接種すると、通常よりも早く（接種後1～5日）、強く接種部位の反応が起こることがあります。これをコッホ現象といいます。

### コッホ現象かもしれない、と思ったら

#### ① 変化に気付いたら、2～3日以内に必ず接種医を受診してください

この変化（コッホ現象）がでた場合、知らない間にお子さんが結核に感染していた可能性があります。本当に結核に感染しているかどうかを、きちんと調べる必要があります。

集団接種の場合や主治医と連絡が取れないときは、市区町村の予防接種担当課に相談してください。ただし、救急外来を受診するほどの緊急性はありません。

また、近年では子どもが結核にかかる率はとても低くなっているため、調べた結果、結核にかかっていなかったということも多いので、慌てないでください。

#### ② 接種の2～4週間後には、腫れも落ち着きます

接種部位の皮膚が赤く腫れ、うみを伴う変化が見られる場合でも、ガーゼを当てるなどの処置で大丈夫です。接種の2～4カ月後には針痕が残る程度に治癒します。

### コッホ現象の例



接種後2日

接種後5日

接種後7日

接種後3日以内の急激な変化（炎症・化膿など）が特徴です。治るのも通常よりも早いからです。

写真提供：公益財団法人結核予防会